

4820 **パリ滞在記：道路の通行区分帯** 111

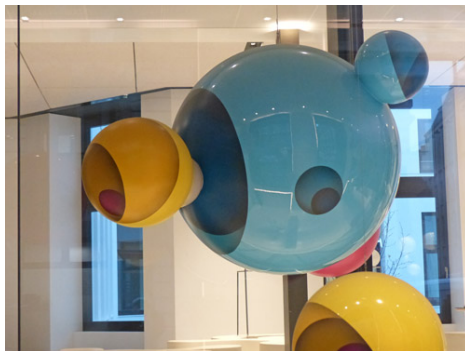
広い主要道路では、通行区分帯が整備されているように思った。

パリ市内、1区から20区までである。まだ、始まったばかりの出会いの印象。

通りの名前も、頭に入れる必要があるが、覚えられない。

久楽の記憶法は、目印になる光景。色彩や建築物の形状、特徴、等々の基準が多い。

メモをとることもあるが、**画像がメモ**であり、**日誌**になる。



ウインドーショッピングも、記憶の材料になる。勿論、下記の表示もある。

碁盤の目になっていけばいいが、そうではない。

横道に入ると、迷うことになる。パリ独特の街の成り立ち、歴史を紐解くと少し理解できる。

パリ改造は、1864年。私には、横道や裏道が面白い。道草、探検。

ふと脳裏に。日本でも、江戸時代から、明治になった時期。**1868年**・明治元年。

世界的潮流、変革の時期だったのかもしれない。昨今、争い事が多い。



夢＝希望と、現実。着眼大局だが、足元の現実、小事実践が大切。

生理現象の対処法も、重要な課題。大晦日、軽く考えていると、冷や汗が出るだろう。

この日は、道路や地下鉄路線が、どうなっているかの体感に、時間をかけた。

下記、公衆トイレを見かけるが、**一步前進**。使用できるか確認が必要。

場所によって、汚く、使用できない。旅を楽しむ最低条件は、リスク管理。

いささか、こじつけだが、**ひとり旅と人生**は、似ている。